

教科	科目	単位数	種別	年次
地理歴史	地理総合	2	必修科目	2年
使用教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)			担当者

学習目標  
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法  
ワークシートを中心に授業を進め、地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を読み取りながら思考を深める  
地理的な見方・考え方を活用しながら、諸地域や地球的課題について、多面的・多角的に考察する。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、定期考査、ワークシート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。

担当者から  
ワークシートを活用しながら、ペアワークやグループワークを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。日頃から世の中に興味を持って、新聞やニュースを見ましょう。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	地図や地理情報システムで捉える現代世界	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差について理解する。	○			○	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。</li> <li>・様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。またその情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や地理情報システムと現代世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>	年4回の定期考査 ワークシート グループワーク 小テスト などを元に評価する。
			地図の役割と種類や有用性について理解する。	○			○	○								
		結び付きを深める現代世界	現代世界の国家と領域について理解する。	○	○		○									
			グローバル化する世界について理解する。			○			○		○					
5	国際理解と国際協力	生活文化の多様性と国際理解	生活文化の多様性や地球的環境の変化によって変容することを理解する。	○			○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</li> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>			
			世界の地形と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○									
			世界の気候と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○	○								
			世界の言語・宗教と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○					○	○						
			歴史的背景と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○	○				○							
			世界の産業と人々の生活との相互依存関係について理解する。	○			○	○								
10	地球的課題と国際協力	地球的課題と国際協力	地球的課題の空間的相互依存作用について理解する。							○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地で見られる様々な問題を基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</li> <li>・世界各地で見られる様々な問題を基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指す各国の取り組みや国際協力が必要であることについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地で見られる様々な地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>			
			地球的課題の解決には各国の取り組みや国際協力が必要であることを理解する。						○	○						

1	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	日本の自然環境について理解する。	○							○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本をはじめ世界各地や生活圏で見られる自然災害を基に、自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>		
			さまざまな自然災害に対応した防災の取り組みについて理解する。	○							○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な自然災害に対応したハザードマップや各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。</li> </ul>			
3		生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査を基に、地理的な課題やその解決に向けた取り組みについて考察する。								○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容などに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul>

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	歴史総合	3	必修科目	2年	
使用教科書	歴史総合 近代から現代へ(山川出版)			担当者	

学習目標  
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法  
教科書とワークシートを中心に授業を進め、中学校で学んだ歴史をもとにより深く、さまざまな情報を読み取りながら思考を深めて、歴史的な見方・考え方を活用しながら、世界と日本の歴史的つながりについて多面的・多角的に考察する。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をふまえ、授業の取り組みや定期考査、小テスト、レポート、授業プリントへの取り組みなどを総合的に評価する。

担当者から  
時数の兼ね合いから題材を選択して進みプリントを中心に授業をおこなう。授業時間を大切に自宅でも復習に励むことを望む。また、歴史総合では国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方などのなかから、世界と日本の歴史的つながりを主体的、対話的な授業を通して自ら思い考え深めることを目標とする。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	第1章近代化への胎動	1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	・17世紀を通じて東アジアではどのような体制ができあがったのだろうか。 ・17世紀に成立した日本の江戸幕府と中国の清朝について考える。 ・江戸幕府が対外関係の場とした四つの口について考える。										・本文を読んで江戸時代の日本にどのような身分があり、どのような問題があったかを理解している。	・清の海禁政策緩和がユーラシア大陸全体に与えた影響について、中国とヨーロッパが幅広く交易がおこなわれていたことを多面的・多角的に考察している。	・江戸時代の国際交流について主体的に追究して、「鎖国」で国際関係を絶っていたとしかつての見方を打破する学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	年四回の定期考査 小テスト レポート 授業プリントへの取り組みなどで評価する。
4		2. 江戸時代の生産・流通と諸改革	・商品作物の生産と流通は、国内外にどのような影響を与えたのだろうか。 ・江戸幕府の田沼意次と松平定信の2人の政策の違いについて考える。 ・商品経済の発達が生産の経済にどのような影響を与えたのか考える。										・田沼意次の政策を説明することができる。また、アイヌとの交易の様子をまとめることができる。	・北方探検の地図から、田沼意次失脚後も江戸幕府が北方にどのような関心を持っていたのか、政策の継続性という観点から多面的・多角的に考察している。	・田沼意次という個人の政策だけで説明することの問題点を追究して、どの時代においても政策が個人の発案だけで動いているのではないことを学び、政治の学習など社会生活に活かそうとしている。	
5		3. 幕政の改革と東アジア世界	・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたのだろうか。 ・江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点(内患外憂)について考える。 ・清と朝鮮の対外関係について考える。										・18世紀末から19世紀前半にかけて日本列島に來航した外国船に関して、教科書の資料を使って情報を集め、まとめることができる。	・東アジア諸国による欧米諸国への政策に、欧米諸国はどうか対応していくのかを、日本・清・朝鮮それぞれの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながら多面的・多角的に考察することができる。	・幕政改革が今後の日本と世界との関係を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
5		4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	・イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、どのように始まり、展開したのだろうか。 ・イギリス産業革命について考える。 ・アメリカ独立戦争について考える。										・産業革命期に発明された品目や役割について情報をまとめることができる。 ・イギリスの資本主義社会の問題点を説明することができる。 ・「アメリカ独立宣言」の内容を理解し、アメリカの独立に与えた影響について説明することができる。	・イギリス国内の炭田・鉄の産地・鉄道・運河がイギリス産業革命で果たした役割、イギリスで最初に産業革命が発生した理由について多面的・多角的に考察することができる。 ・アメリカが独立に向かう決定的な転機はどこにあったかについて多面的・多角的に考察できる。	・「イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は現代の社会にどのような影響をもたらしたのだろうか」という問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	
5	第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	5. フランス革命とウィーン体制	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのだろうか。 ・フランス革命について考える。 ・ナポレオン戦争とウィーン体制について考える。										・フランス革命の背景、内容、影響について、説明することができる。	・「フランス人権宣言」と「アメリカ独立宣言」との共通点など当時の政治思想について多面的・多角的に考察することができる。	・フランス革命やウィーン体制などでヨーロッパの人々の国家に対する考えがどのように変化したのだろうか。また、それは日本にどのような影響を与えることになるのだろうか。これらの問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。	

5	6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	<ul style="list-style-type: none"> <li>領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのだろうか。</li> <li>独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。</li> <li>ラテンアメリカの独立について考える。</li> </ul>	○	○	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカ合衆国と大西洋を挟む英仏などヨーロッパとの関係について、ナポレオン戦争との関連も含め、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西部開拓の問題点を多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>人種問題について今日的課題ともあわせてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北戦争後のアメリカ合衆国と独立後のラテンアメリカ諸国にはどのような問題が残されたのだろうか、また19世紀に限ることなく、現代にも通じる問題点について追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
6	7. オスマン帝国の衰退とロシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたのだろうか。</li> <li>オスマン帝国の衰退過程について考える。</li> <li>ロシアの改革とその問題点について考える。</li> </ul>	○	○	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>オスマン帝国の領土の縮小について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オスマン帝国の領土に進出したイギリス・フランス・ロシアの思惑について、多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつてオスマン帝国が支配した地中海の沿岸地域では、いまだに政治状況が安定していないところがある。それらの歴史的背景を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
6	8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国	<ul style="list-style-type: none"> <li>アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのだろうか。</li> <li>アヘン戦争とインド大反乱について考える。</li> <li>日本の開国とその影響について考える。</li> </ul>			○	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角貿易の具体的内容、アヘン戦争の原因を説明することができる。</li> <li>太平天国とインド大反乱の起きた地域を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清の近代化の失敗した理由についてグループワークを通じて多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>「日本と欧米との条約が清と欧米との条約と異なる点は何だろうか」という問いに多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペリー来航を契機に日本の政治体制は大きく変わった。政治の変化は経済や文化にも大きく影響を与える。現代においても同様の事例がないか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
6	9. 江戸幕府の滅亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>将軍や各藩はどのような政治体制をつくろうとしたのだろうか。</li> <li>尊皇攘夷運動の高まった理由を考える。</li> <li>幕末の薩摩藩・長州藩の動き、大政奉還と王政復古について考える。</li> </ul>			○	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の政治の変化のなかで民衆はどのような動きを見せたかの情報をあつめてまとめることができる。</li> <li>幕府・長州藩・薩摩藩の動きと関連を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸幕府がめざした政治はどのようなもので、なぜ薩長側はそれに反対したのだろうか」の問いにグループワークを通じて多面的に考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央政府である幕府と地方政権である藩との関係と現代の日本政府と都道府県との関係を比較追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
6	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>19世紀後半のイギリス・フランス・イタリア・ドイツでは、どのような政治上の動きがみられたのだろうか。</li> <li>19世紀のイギリスとフランスの繁栄について考える。</li> <li>19世紀後半にイタリアとドイツが統一した経緯や内容を考える。</li> </ul>			○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナポレオン三世がめざしたものを説明することができる。</li> <li>イタリアとドイツがどのような地域を包摂しているか情報を集めてまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会主義思想が生まれた背景や2つの考え方について、多面的・多角的に考察して表現することができる。</li> <li>イタリアとドイツの統一運動にみられた共通点と相違点を多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のイギリスやフランスの旧植民地との関係、現代のドイツやイタリアの地域差を19世紀と比較し追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
7	11. 明治政府の諸改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治政府は、どのような国づくりをすすめたのだろうか。</li> <li>明治維新の過程を考える。</li> <li>明治新政府の政治を考える。</li> </ul>			○	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>権力者が将軍から天皇に変わったことを示すためにどのような方法を用いたのか説明することができる。</li> <li>新政府が税制改革をしなければならなかった事情をまとめ、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民衆が明治政府の政策をどのようにとらえていたか多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>四民平等と徴税や徴兵制度との関係を多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の地位について現代的な問題と比較して多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>
7	12. 日本のアジア外交と国境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本はどのように国境を画定したのだろうか。</li> <li>明治政府が清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考える。</li> <li>日本の北方と南方の国境の問題や明治政府の台湾・琉球政策について考える。</li> </ul>			○	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>「四つの口」の記述にある江戸幕府が築いてきた清と朝鮮との関係と明治政府との違いを説明することができる。</li> <li>江華島事件での日本軍の行為や江華島とソウルとの位置関係をまとめ説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治政府の朝鮮・台湾・琉球に対する政策の内容と問題点を多面的・多角的に考察し、まとめて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本と朝鮮、日本と沖縄との関係と比較するとともに、アイヌに対しては国連の先住民に対する決議とも照らし、どのような製作を進めていくのが良いか追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
7	13. 自由民権運動と大日本帝国憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権運動がめざしたのは、どのような国家だったのか。</li> <li>明治政府の方針と自由民権運動との関係、政党的結成について考える。</li> </ul>			○	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>西南戦争が自由民権運動に与えた影響を説明することができる。</li> <li>「秩父事件」について自由民権運動の中でどのような意味を持つのかをまとめ説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大日本帝国憲法」と「五日市憲法」を比較し、国民の権利の規定を比較して多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>「大日本帝国憲法」にある「強い君主圏」は、その後の日本にどのような影響を与えたと考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の女性の民権家の主張と現代の女性が訴えていることを比較して追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>

7		14. 帝国主義の時代へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのだろうか。</li> <li>・帝国主義について考える。</li> <li>・アフリカと太平洋の分割について考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ諸国がアフリカのどこを支配したのかを説明することができる。</li> <li>・アメリカがアフリカではなく太平洋に進出した理由を、アメリカの国内事情や西洋諸国の動きと比較して説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパの人々の考えはアフリカやアジアの人々をどのように扱うことにつながったのかを多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀に入ってもアフリカでの部族対立など紛争が絶えない。その原因の一つは列強によるアフリカ分割と考えられる。その歴史をふまえて、どのような解決方法があるかを追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
8	第4章 帝国主義の時代	15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日清戦争は、何を目的にはじまったのだろうか。</li> <li>・日本の1880年代から90年代にかけての朝鮮半島進出について考える。</li> <li>・日清戦争の過程と台湾征服戦争について考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の朝鮮半島進出について説明することができる。</li> <li>・その際、朝鮮の関妃と対立した大院君について解説することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の貧民が軍夫として最前線に立った。日本軍人も貧しい家の出身者が多かった。そのような人々が残虐行為に加担した。その背景について多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と韓国・北朝鮮との関係は良好とはいえない。その要因の一つが19世紀後半からはじまった日本の朝鮮侵略である。どのような解決方法があるかを追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
8		16. 日清戦争後の東アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と中国や朝鮮との関係は、どのようにかわっていったのだろうか。</li> <li>・日清戦争後の日本人の意識の変化について考える。</li> <li>・清をとりまく国際情勢や清国の改革について考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・「藩閥政治と政党政治」を考え、日本の政治での藩閥の影響について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「義和団戦争における日本の対応は、その後の中国や朝鮮との関係にどのような影響を与えたのか」を多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国分割の地図をみて、現代に残る影響を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
9		17. 日露戦争と東アジアの変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争の影響にはどのようなことがあるだろうか。</li> <li>・日露戦争と日本の韓国侵略について考える。</li> <li>・辛亥革命とその影響を考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争の主な戦場について説明することができる。</li> <li>・韓国併合にいたる過程を説明することができる。</li> <li>・「孫文と袁世凱」の関係がその後の辛亥革命にどのように影響したかを説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辛亥革命に同調した省が南側に多い理由、清朝側について省が北に多かった理由を多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争によって人々の気持ちはどのように変化するか、国民意識を高揚させるため政治家は国際関係や戦争をどのように利用するかという問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
9		18. 日本の産業革命	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命によって日本の経済と社会は、どのようにかわったのだろうか。</li> <li>・日本の産業の発展、都市と農村の社会問題について考える。</li> <li>・日本の社会運動について考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・官営八幡製鉄所が稼働した後、日本の産業構造はどのように変化したかを考え説明することができる。</li> <li>・「金本位制」を参考に日本がなぜ金本位制を採用しようとしたのかをまとめ、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とイギリスの産業の発達について比較し多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>・産業の発展にともない拡大した社会運動について、現代の社会との共通点や相違点を多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「足尾鉾山鉍毒事件」を背景に産業の発展と公害との関係を考え、現代において公害さらには環境問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
9	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	19. 第一次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。</li> <li>・第一次世界大戦の全容について考える。</li> <li>・第一次世界大戦の影響について考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の第一次世界大戦の全容を理解している。</li> <li>・第一次世界大戦中に日本がどのような行動をとったのかをまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の原因となる各国の政策や国際関係について考察してみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦が人々に与えた影響やその後の国際関係などの学習したことを、今日の戦争や紛争が与える影響を意識し、社会生活に活かそうとしている。</li> </ul>
9		20. ロシア革命とソ連の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であろうか。</li> <li>・ロシア革命の原因や経過について考える。</li> <li>・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア革命が第一革命、二月革命、十月革命の3段階に分けられる意味を説明することができる。</li> <li>・1905年のロシア第一革命から1922年のソ連の結成までの流れを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界はロシア革命をどのように受けとめていたのだろうか、多面的に考察している。</li> <li>・対ソ干渉戦争を起こしたのはどのような国であったのか、そしてその国々の思惑について多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会主義の考え方が現在の世界にどのような影響を与えるのか主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。</li> </ul>
10		21. 米騒動と大正デモクラシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米騒動のなかで人々は何を求めたのだろうか。</li> <li>・第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。</li> <li>・日本の民衆が政治にどのような形で参加するようになったかを考える。</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>・米騒動の広がり、担い手やだれが鎮圧しているかを説明することができる。</li> <li>・吉野作造と石橋湛山の2人が語っていることがこの時代においてどのような歴史的意味を持っているか理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦が日本経済に与えた影響をレポートにまとめるなど、適切に表現している。</li> <li>・吉野の民本主義といまの民主主義の共通点や違いを多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦景気によってすべての日本国民が潤ったわけではないこと、現在の景気の指標がすべての人に該当するわけではないことの問題点を追究して、どの時代においても政策が個人に配慮すべきことを学び、社会生活に活かそうとしている。</li> </ul>

10	22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか。</li> <li>・第一次世界大戦後の国際秩序とヴェルサイユ体制について考える。</li> <li>・ワシントン体制について考える。</li> </ul>	○	○	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦によってヨーロッパの地図がどのように変化したのかをまとめることができる。</li> <li>・ヴェルサイユ条約の内容と問題点についてまとめることができる。</li> <li>・第一次世界大戦後に締結されたさまざまな条約の内容を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連盟の役割をどのようにとらえていたかを考え、国際連盟がその役割を果たせたのか、ウィルソンの理想は実現したのかということを考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義の時代にたくさん置かれた植民地、国際連盟が委託した委任統治領など民族自治をゆるがす行為が今日にもたらしている影響を追究しようとしている。</li> <li>・国際社会で発言力を高めたこの時期のアメリカと今日のアメリカとの相違点を追究して、国際社会の問題を考察しようとしている。</li> </ul>		
10	23. アジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜだろう。</li> <li>・トルコやインドではあらたにどのような動きがあったかを考える。</li> <li>・朝鮮半島と中国の動きについて考える。</li> </ul>				○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドの独立運動の中でガンディーが糸を紡ぎ、独立旗に糸車が描かれている意味とスワデージを要求したこととの関連で説明することができる。</li> <li>・朝鮮半島で三・一運動が起きた背景や日本の統治への影響を考察する。</li> <li>・中国の国内で国民党・共産党・軍閥がどのような動きを見せたか、日本はどのように関わったかを説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東アジアの民族自決を求める動きに対して、日本はどうかかわるべきだったのだろうか」を、朝鮮と中国それぞれの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながらレポートにまとめるなど、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が中国や朝鮮半島とどのように関わってきたのかをまとめ、現在の日本と中国、韓国と北朝鮮とのかかわりの問題点を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>		
10	24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられただろうか。</li> <li>・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツのヴァイマル共和国について考える。</li> <li>・1920年代のアメリカ合衆国について考える。</li> </ul>	○						○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアのムッソリーニの統治の特徴を説明することができる。</li> <li>・ドイツが国際経済の中でどのような状態なのか、欧米との関係について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1920年代にあらわれた動きで、現代の社会に影響を与えたものは何だろうか、ヨーロッパ・アメリカの場合に分けて、共通点や相違点をふまえながら多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不戦条約が締結された理由、軍縮条約が結ばれた理由、さらに戦争を非合法化する動きの現代的な意義を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>		
10	25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会運動をになった人々は、何を求めたのだろうか。</li> <li>・日本での社会運動の広がり、男性普通選挙と治安維持法制定について考える。</li> <li>・協調外交と山東出兵について考える。</li> </ul>	○	○						○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働争議と小作争議が年によって増減する理由、両者の増減のずれなどの理由を理解している。</li> <li>・関東大震災などの予期せぬ災害が社会にもたらす影響を理解している。</li> <li>・日本の中国侵略について、中国の国内問題との関係をからめて説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通選挙法と治安維持法は、なぜ同時に制定されたのだろうか」という問いを、それぞれの法律の内容と国際的な背景などをふまえながら多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の女性の問題、さらに広げてジェンダーの問題という今日的課題の問題点を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>	
10	第6章 経済危機と第二次世界大戦	26. 世界恐慌と各国の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。</li> <li>・世界恐慌と日本への影響について考える。</li> <li>・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。</li> </ul>	○	○						○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌の影響を受けず、工業生産を伸ばした国はどこだろうか。また比較的早く工業生産を回復させた国はどこだろうかという問いに答えることができる。</li> <li>・ソ連の計画経済の利点と欠点を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1929年に世界恐慌がはじまり、1939年に第二次世界大戦がはじまったが、各国が実施した経済政策を比較検討しレポートにまとめるなど、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国が実施したどのような経済政策よっての経済状態の悪化が、諸国の対立を生み戦争につながる可能性があることを、現在の経済状態や国際関係と比較して追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
11	27. ファシズムの時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。</li> <li>・イタリアやドイツでファシズムが台頭した理由を考える。</li> <li>・ドイツとイタリアの対外進出と各国の対応について考える。</li> </ul>				○				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ナチ党による国民投票」で、なぜ国民投票を行おうとしたのかを説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宥和政策の問題点をあげ、自分がイギリスの首相であったら、どのような方法でドイツの領土拡大を抑え込むかを多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆の支持を得るために国家や権力者がどのようなことを行ってきたかを現在と比較検討し、あなたが一方的な宣伝にだまされないようにするためにどのようにすべきかを追究して、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>	
11	28. 満洲事変と軍部の対立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのだろうか。</li> <li>・満洲事変と「満洲国」の成立、日本の孤立化について考える。</li> <li>・日本企業のアジア進出と日本の軍部の発言力の高まりについて考える。</li> </ul>	○	○							○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が「満洲国」を建国した意図と日本が溥儀を執政としたの理由も説明し、「リットン報告書」を利用して国際社会の反応もまとめることができる。</li> <li>・日本の軍部の発言力の高まりについて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このようななかで、兵士たちがどのような理由で二・二六事件を起こしたのか、その後の日本の行動を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連盟からの脱退や軍部の発言力の高まりに対して、なぜ民衆が支持をしたと考えるかを、21世紀に起きた戦争や紛争でも国家が民衆の支持を気にしていたこととも比較し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>

11		29. 日中戦争と戦時体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国との戦争は、なぜ長期化したのだろうか。</li> <li>日中戦争の内容と影響を考える。</li> <li>戦時下の日本社会について考える。</li> </ul>	○						<ul style="list-style-type: none"> <li>この戦時下、人々がどのようなことを強いられていたのかを当時の日本の状況をふまえてつまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中戦争を軍人だけの視点でなく、民衆の視点に立ち多面的・多角的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あなたは、戦争への協力を求められたらどのような行動をとるか考察してみよう。</li> </ul>
11		30. 第二次世界大戦の勃発	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争は、いつどのようにして「終結」したのだろうか。</li> <li>第二次世界大戦の展開をみる。</li> <li>イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。</li> </ul>		○					<ul style="list-style-type: none"> <li>ナチスドイツはユダヤ以外にも、同じドイツ人でも身体障害者や思想家なども弾圧した。ナチスドイツがどのような思想を持っていたかに着目し説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本が無条件降伏をするまで時間がかかり、原子爆弾の被害も受けた。時間がかかった理由を多面的・多角的に考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦下での一般市民に対する人権侵害から何を学ぶべきと考えるようとしている。</li> </ul>
11		31. 第二次世界大戦の終結	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争は、いつどのようにして「終結」したのだろうか。</li> <li>第二次世界大戦の展開をみる。</li> <li>イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。</li> </ul>	○	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>「せん滅作戦」で枢軸国がどのように抑圧したのか、また抑圧した意図、その結果はどうであったのかを説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカが原子爆弾を落とした広島と長崎はどのような共通点があるか。また、東京に落とさなかった理由を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦下での一般市民に対する人権侵害から何を学ぶべきと考えるようとしている。</li> </ul>
11		32. 国際連合の成立と冷戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際連合は設立の目的を十分にはたせてきたのだろうか。</li> <li>国際連合の成立と組織の内容について考える。</li> <li>冷戦について考える。</li> </ul>		○	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>「新たな経済秩序の形成」を参考に、安全保障理事会や国際通貨基金などの国際連合に關係する機関の役割と問題点を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦によりヨーロッパの構図はどのように変化したのだろうか、多面的・多角的に考察してレポートなどにまとめ適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際連合憲章前文」を読んで、ここに書かれていることを達成するためには何が必要か、またあなたなら何を追及し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
11		33. 日本占領と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主化政策によって、日本が戦前から変わったことは何だろうか。</li> <li>GHQの日本占領方針について。</li> <li>GHQの政策と日本国憲法の制定について考える。</li> </ul>		○					<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の戦争責任について、日本国内の反応やGHQの対応についてまとめ、責任追及が曖昧になった点もふくめ説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の民主化・非軍事政策にはどのような成果と課題があったかを多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の改革は日本の出発点となり、現代の日本の礎となっていることを理解している。</li> </ul>
12		34. 朝鮮戦争と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>連合国の対日占領方針は、朝鮮戦争によってどのように変わったのだろうか。</li> <li>朝鮮戦争など冷戦が対日占領政策に与えた影響を考える。</li> <li>日本の独立回復と日米安保条約について考える。</li> </ul>			○				<ul style="list-style-type: none"> <li>サンフランシスコ平和条約の内容をまとめて説明することができる。あわせて領土権の放棄をした場所がいつ日本が獲得したのかも理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮戦争が日本の再軍備に与えた影響をグループワークを通じて多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮戦争によって日本の経済は復興した(特需景気)。しかし武器の輸出など問題のあるものだった。日本が平和憲法を持ちながら、軍事協力をどのような形でやってきたのかを現代においても同様の事例がないか追及し、学習上の課題を解決しようとしている。</li> </ul>
12	第7章 冷戦と脱植民地化	35. 植民地の独立	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧植民地は、どのように独立をはたしたのだろうか。</li> <li>植民地の独立について考える。</li> <li>第三勢力の台頭について考える。</li> </ul>			○				<ul style="list-style-type: none"> <li>エンクルマの国連演説からガーナの場所を指摘するとともに、ガーナの独立の影響を理解している。ベトナムでの旧宗主国とベトナム人との対立の諸段階を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアやアフリカの第三勢力の動きと役割について、レポートにまとめるなど、適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植民地にした国(宗主国)が、旧植民地の発展のために何をすべきだと考えるかを多面的・多角的に考察して、社会生活に活かそうとしている。</li> </ul>
1		36. 米ソ両陣営の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜだろうか。</li> <li>ベトナム戦争とアメリカ社会との関係を考える。</li> <li>社会主義陣営とくにソ連と中国の動揺を考える。</li> </ul>			○				<ul style="list-style-type: none"> <li>「I have a dream」をみて、キング牧師の夢は何であるかを理解している。中国のプロレタリア文化革命が起きた背景や影響を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカの敵は何であったのかを、国際世論の動向にも目を配りながら多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム戦争が終わって半世紀近くたとうとしているが、ダイオキシンの問題、地雷の除去の問題などが残っている。これをどのように解決するかを主体的に追及して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。</li> </ul>
1		37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのだろうか。</li> <li>日本の高度経済成長期を考える。</li> </ul>				○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の55年体制を説明することができる。日本のアジア諸国への賠償や無償供与の内容、賠償と無償供与の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の経済成長率と製造業の関係を多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の高度経済成長期は冷戦が激しかった時期でもある。日本が韓国や中国と国交を回復したこと、沖縄の返還が実現したことが現在に与えている影響について主体的に追及して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。</li> </ul>

2	第8章 多角化する世界	38. 石油危機と世界経済	・石油危機以後の世界はどのような変化をみせたのだろうか。									・もの「石油」から石油というエネルギーがかかえる問題を指摘し、それによって変わるエネルギーは何がよいのかを説明することができる。	・新自由主義の長所と短所は何だと考えるかを、イギリスと日本の事例を比較検討し多面的・多角的に考察している。	・新自由主義の長所と短所は何だと考え、格差拡大といわれる新自由主義に対して、少ない税収や少子高齢化の日本でどのような政策をとるのがよいのかという問題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
2		39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのだろうか。 ・緊張の緩和と再燃について考える。									・ゴルバチョフ政権の政策をまとめ、その利点と問題点を説明できる。また、独立国家共同体とソ連の違いも理解している。	・冷戦の終結後、多くの国家が成立した理由は何だろうかを通じて多面的・多角的に考察し、レポートにまとめるなど、適切に表現している。	・現在の中東の混乱と国際社会の関与、米ロの関わり方という現代的な課題を追究して、学習上の課題を解決しようとしている。
2		40. 日本の経済大国化	・日本の経済大国化と国際的地位の向上について考える。 ・バブル経済はなぜ崩壊したのだろうか。									・日本の株価上昇と下落の時期の特徴を理解している。	・低成長時代に必要政策は何だったのだろうかを、多面的・多角的に考察している。	・現代の日本は低成長の時代が続いている。その一方、BRICSなど経済成長をしている国もある。日本が経済発展をするには何が必要かという学習上の課題を解決しようとしている。
3	第9章 グローバル化と現代世界	41. 地域紛争と対立	・冷戦後の地域紛争の原因は何か。 ・冷戦後の世界、民族の対立を考える。									・世界の地域紛争について調べ、1つ1つの出来事を理解している。	・多発するテロをなくすためには、どのようなことをすればよいと考えるかを多面的・多角的に考察している。	・紛争や戦争をなくすという目的のために、国家という枠組みでのみ考えることの限界について事例をあげて説明し、平和のためにどのような論点で考えればよいかという課題に対し、グループワークを通じて学習上の課題を解決しようとしている。
3		42. 国際秩序の変容	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのだろうか。 ・地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。									・EUの拡大について説明することができるとともに、ユーロが使われはじめたことによって、各国の通貨が使われていたときと比べて、便利になった点を理解している。	・国際秩序がどのように変容することで、平和が維持できると考えるか」という問いについて、グループワークをふまえて多面的・多角的に考察している。	・グローバル化の時代のなか、国際的枠組みも変化が求められるようになってきた。どのような枠組みが人類が共生していくのにふさわしいと考えるかという課題を追究し、どのようにすればよいかという学習上の課題を解決しようとしている。

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	公共	2	必修科目	1年	
使用教科書	公共(教育図書)			担当者	

学習目標  
社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法  
学習を通じて現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題解決のために主体的に考え判断する能力を身につけることを目指す。社会課題に対するみかた、考え方はさまざまあり多面的であることを重視しその複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在として能力を養うこととくに重点を置く。

育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察し、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。

以上の観点をもとめ、授業の取り組みや定期考査、小テスト、レポート、授業プリントへの取り組みなどを総合的に評価する。

担当者から  
時数の兼ね合いから題材を選択して進みプリントを中心に授業をおこなう。授業時間を大切に自宅でも復習に励むことを望む。また、公共では身近で起こるさまざまな社会問題や話題を引き付けて考えるテーマ学習が設定している。主体的、対話的な授業を通して自ら思い考え深めることを目標とする。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法		
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
4	公共の扉(公共と人)	※ オリエンテーション 1 人は一人では生きられない 2 人はどのようにつながるのか 3 自由と正義の実現を目指す 4 対話から生まれる公共 5 日本の公共思想 ※各テーマ学習	人と人とのつながりの中で自由に生きられる公共空間の重要性を学び、それを形成するうえで重要な知識を習得させる。											人が人生において持つ意味を理解している。人と人とのつながり、人間の本性や日本における公共の発展について理解している。	公共空間とはどのような空間か自分の体験や具体的事例に基づいて思考している。相手の意見を受けて自分の考え述べることができる。	多様な人間と共働する公共空間の担い手としての自覚を深める。自由で公正な社会の実現に向けて主体的に思考している。	年四回の定期考査 小テスト レポート 授業プリントへの取り組みなどで評価する。
5	公共の扉(公共と倫理)	1 功利主義と義務論 2 水俣病を考える 3 地球温暖化問題 4 誰が医療を支えるのか ※各テーマ学習	戦後の公害問題や地球環境問題を考え、これを将来どのように解決するかが重大な課題であることに注目させる。											感性と理性の相違について理解している。経済と環境との関係を理解している。	社会現象や政策判断を功利主義、義務論の考えに基づき表現している。	学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせて思考している。	
6	公共の扉(公共の基本原則)	1 生徒会予算をどう分配するのか 2 意見が分かれたときにどう決めるか 3 民主政治の歴史 4 日本国憲法の三つの原理 5 基本的人権の尊重 6 大学入試と男女差別 7 男女女性医師が日本は少ないのか	民主主義の基本的な仕組みを理解させ、国民権、基本的人権の尊重、平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。 法の下での平等、自由権、社会権などの基本的人権はすべての人間が持っており、憲法がそれぞれを保障していることを学ぶ。											異なる意見を持つ他者の考え方を理解しようとしている。憲法での国民の権利と義務について理解している。日本社会の現状について理解している。	民主主義のさまざまな制度がなぜ必要なのか表現できている。立憲主義の意義について適切に表現できる。「公共の福祉」の概念が、どのような役割を果たすのか思考する。	自らが持っている人権(自然権)について自覚を深めている。日本国憲法の条文を読み、理解を深めようとしている。様々な基本的人権について、権利主体として自覚しつつある。	
7	現代社会の諸課題(法)	1 法と社会 2 多様な契約と消費者の権利と責任 3 日本の司法制度 ※各テーマ学習	社会が法やマナー、道徳などのルールにより維持されていることを学ぶ。社会生活を営む上で、私たちは様々な契約を結んでいることを理解させる。											法と道徳との相違点を理解している。契約が当事者の同意により、成立することを理解している。	法の限界を理解し、法の実効性を高めるための手段について思考している。よい社会の実現のための法がどのように機能しているか表現している。	法について関心を持ち、自らが持つ権利と、責任について自覚を深めている。	
9	現代社会の諸課題(政治)	1 選挙と政治参加 2 公正な世論の形成 3 国会と内閣 4 地方自治 ※各テーマ学習	民主主義を維持していくために私たちの主権者としての自覚が重要である点を強調し、国民の意思決定は民主主義の本旨であることを理解させ、そこで展開される政治についての仕組みについて理解を深める。											民主主義とは国民に主権があるという基本的な考えに基づき、これを実現するためにさまざまな制度や法律があることを理解している。	現在の日本の政治制度について具体的に説明できる。主権者としてどのような意識が重要か思考している。	政治に関心を持ち、私たちの民意を実現するために、よりよい政治の仕組みを考察しようとしている。	
10	現代社会の諸課題(国際社会と日本)	1 国家主権と領土 2 安全保障と防衛 3 21世紀の世界情勢 4 国際社会と日本 ※各テーマ学習	戦後、日本が国際社会において果たしてきた役割を学び、今後日本が国際社会で果たすべき責任について学習する。											戦後の日本がたどってきた歴史と、国際貢献の内容を理解している。日本が国際社会で果たすべき責任について思考している。	平和主義という憲法の理念の下、過去の戦争責任を果たしつつ、同時に未来の平和責任を果たし日本の役割について思考している。	先進国である日本が国際社会で果たすべき役割について、自覚を具体的に考察する意欲がある。	
11	現代社会の諸課題(経済)	1 職業選択 2 雇用と労働 3 労働者の権利 4 財政の役割 5 租税の仕組みと国債 6 少子化と社会保障 7 市場経済の役割と限界 ※各テーマ学習	日本経済がたどってきた産業構造の変化と、今後の働き方の可能性について学び、自らが働くことの意味や、生活とのバランスについて自覚を持たせる。 日本の財政についてのしくみについて知識を習得するとともに、日本の財政問題についてその現状と課題について考えていく。											財政の三つの役割について知識を習得している。景気を安定させるための財政政策の仕組みを理解している。	財政が市場経済で発生する諸問題に対処するため政府が行う経済活動を思考している。	将来どのような働き方を望むか、日本経済環境の変化を主体的に受け止めて思考している。	
1	現代社会の諸課題(金融)	1 金融のはたらき 2 日本銀行と金融経済 3 グローバル化と経済統合 4 格差是正と多文化主義 ※各テーマ学習	金融が家計、企業、政府の間で幅広く行われ、経済活動を支える重要な役割を果たしていることを学習する。 金融市場の仕組みと、企業の会計情報などの知識を習得するとともに、金融の自由化、国際化について学ぶ。											直接・間接禁輸の違い、銀行や証券会社など金融機関の役割を理解している。	金融の仕組みを通してお金が流れ、経済主体の間を循環していることを表現している。	預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。日本の金融の流れについて自ら調べようとしている。	

3	現代社会の諸課題 (情報)	1つながりばなしの私 2インターネットは公共圏か？ 3持続可能な社会へ ○まとめ	現代社会が膨大なメディアを介して人と人が繋がっていることを理解し、自らとメディアとの関わり方について考える。 これからの持続可能な社会にどんな課題があるのかを考察し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方はたかかせて課題解決に向けて学習する。					



1	現代の諸課題と倫理	自然や科学技術に関わる諸課題と倫理	生命、自然、科学技術など人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりに多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述する。		○		○	○		私たちの生活や社会における倫理的課題に対して、倫理に関する概念や理論を結びつける。	生命、自然、科学技術など人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的・公正に考察し、自分の考えを説明、論述する。	現代の諸課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追求したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。
3	現代の諸課題と倫理	社会と文化に関わる諸課題と倫理	福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。		○		○	○			福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論を手掛かりに多面的・多角的・公正に考察し、自分の考えを説明、論述する。	

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	世界史A	2	必修科目	3年	
使用教科書	明解 世界史A(帝国書院)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	ワークシートを中心に授業を進め、教科書からさまざまな情報を読み取りながら思考を深める。 世界の歴史的諸事象について、日本の歴史とのつながりや横とのつながりを意識しながら多面的に考察する。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をふまえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、ワークシート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。</li> <li>主に、定期考査で主に1・3を、ワークシート・グループワークなどで2・4～8を評価します。</li> </ul>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																		
担当者から	ワークシートを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。 教科書や史料から必要な情報を読み取り、活用できるようになりましょう。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	1部 世界の一体化と日本	1章 前近代の諸文明	序節 人類の始まり	○	○					○			人類の発生・進化の過程や農耕・牧畜による食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追求する。	年4回の定期考査 ワークシート グループワーク などを元に評価する。
4			1節 東アジアの文明	○	○	○							日本を含む東アジアの文明の特質(封建制度・儒教思想・律令体制など)を理解する。	
5			2節 南アジアの文明	○	○	○							南アジアの文明の特質(カースト制・宗教など)を理解する。	
5			3節 東南アジアの文明	○	○	○							東南アジアの特質(都市や港市のネットワークなど)を理解する。	
5			4節 西アジア・北アフリカの文明	○	○	○							成立とその特色について、イスラーム教やムスリム商人の役割などから理解する。	
5			5節 ヨーロッパの文明	○	○	○							ヨーロッパ文明の特質(古代文明・キリスト教・封建社会など)を理解する。	
5			6節 南北アメリカの文明	○	○				○				風土と先住民、独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追求する。	
5		7節 ユーラシアの交流圏			○	○	○					交流圏の成立とネットワークに関する資料を収集し、適切に活用する。		
6		2章 一体化に向かう世界	1節 繁栄するアジア	○	○		○						成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色を理解する。	
7			2節 大航海時代と新たな国家の形成	○	○			○					16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向について、グループで考察する。	
8		3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺	1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	○	○		○						ヨーロッパとアメリカの諸革命について理解する。	
9	2節 自由主義・ナショナリズムの進展		○	○			○					自由主義とナショナリズムの進展について理解する。		
10	3節 アジア諸国の動揺		○	○						○		ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化と抵抗などのアジア諸国の動揺について理解する。		
11	4節 東アジアの大変動		○	○						○		ヨーロッパ諸国の進出に対する日本の対応など、東アジアの様子を理解する。		
11	2部 地球社会と日本	1章 現代世界の芽生えと世界大戦	1節 現在につながる社会の形成	○	○		○					20世紀という時代の特質を理解する。		
12			2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	○	○						○	第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義について考察する。		
12			3節 民族自決を求めて	○	○			○					民族運動と民族自決を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考える。	
12			4節 経済危機から第二次世界大戦へ	○	○							○	世界恐慌と資本主義の変容、国際政治の流れ、現代の戦争の特質と平和の意義について考察する。	
1		2章 冷戦から地球社会へ	1節 冷たい戦争の時代	○	○					○		1970年代頃までの世界の大きな動向について理解する。		
1			2節 冷戦終結への道のり	○	○						○	1970年代以降の世界の大きな変容について理解する。		
1			3節 地球社会への歩み								○	○	○	これからの国際社会における日本の役割について考察する。

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	日本史B	2	必修科目	3年	
使用教科書	詳説日本史 改訂版(山川出版)			担当者	

学習目標 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法 教科書の精読ならびに資料の有効活用により、深く理解する態度を養う。  
課題・資料の内容から問題意識をもって授業に参加する。

学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	
3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	
4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	
5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	
6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	
7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。	

以上の観点をふまえ、  
定期考査の成績、課題やレポートの取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価する。

担当者から 単元ごとのプリントを中心に授業を進める。  
ペアワークやグループワークを通して主体的に授業に参加すること。  
自ら学習内容をまとめる作業を通して表現・工夫する力を養う。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法	
				1	2	3	4	5	6	7	8			
4	第3部 近世	8 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革	○	○		○						経済発展や農民層分解という幕藩体制の構造変化に関心を持つ。	年4回の定期考査 プリントのレポート提出 グループワークの積極性
4			2 宝暦・天明期の文化	○		○	○						洋学や国学の発達を、幕藩体制の動揺に着目して考察する。	
5			3 幕府の衰退と近代への道	○	○		○						幕府衰退化と近代化の道程について関心を持ち、理解する。	
5			4 化政文化	○		○	○						学問・思想の発達と庶民教育機関普及について理解する。	
6	第4部 近代・現代	9 近代国家の成立	1 開国と幕末の混乱	○	○		○						開国により国際社会に組み込まれた過程について考察する。	
6			2 明治維新と富国強兵	○	○			○					列強に対抗する近代国家形成への意識と行動について理解する。	
7			3 立憲国家の成立と日清戦争	○	○						○		自由民権運動により政治的関心が高揚したことを考察する。	
7			4 日露戦争と国際関係	○	○						○		近隣諸国が我が国の対外姿勢をどう受け止めたかを考察する。	
8			5 近代産業の発展	○	○			○					社会問題・労働問題などの社会運動が起きた経緯を理解する。	
8			6 近代文化の発達	○		○	○						伝統的な文化の上にお薄油分かをとり入れた特色を理解する。	
9		10 二つの世界大戦とアジア	1 第一次世界大戦と日本	○	○			○					大戦が経済・社会に及ぼした影響について多面的に考察する。	
9			2 ワシントン体制	○	○						○		国際社会における日本の立場や対外政策について理解する。	
10			3 市民生活の変容と大衆文化	○		○	○						市民の生活の変化が大衆文化に与えた影響について考察する。	
10			4 恐慌の時代	○	○						○		経済政策に着目して世界経済との関連について理解する。	
10			5 軍部の台頭	○	○		○						対外政策の推移を、国際環境や国内状況と照らして理解する。	
11			6 第二次世界大戦	○	○						○		大戦による人類と文化の破壊に着目し、命の尊さを理解する。	
11		11 占領下の日本	1 占領と改革	○	○			○					戦後の諸改革が占領政策に基づくものであることを理解する。	
11			2 冷戦の開始と講和	○	○						○		戦後日本の政治経済と冷戦構造について関心を持つ。	
12		12 高度成長の時代	1 55年体制	○	○						○		独立回復後の国内政治の再編について過程を理解する。	
12			2 経済復興から高度成長へ	○	○						○		経済復興の過程を、連合国の対日政策に着目して考察する。	
1		13 激動する世界と日本	1 経済大国への道	○			○						経済の国際化と共に先進国としての国際地位確立を考察する。	
1			2 冷戦の終結と日本社会の動揺	○	○						○		国際グローバル化の中での日本の役割について考察する。	

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	地理A	3	選択科目	3年	
使用教科書	高校生地理A(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。																		
学習方法	ワークシートを中心に授業を進め、教科書や地図帳からさまざまな情報を読み取りながら思考を深める。 学習した地理の基礎的事項を活用しながら、世界の諸地域や地球的な課題について、多面的に考察する。																		
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>育成を目指す資質・能力</th> <th>育成を目指す資質・能力の評価内容</th> </tr> <tr> <td>1 基礎的・基本的学力</td> <td>基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。</td> </tr> <tr> <td>2 課題解決能力</td> <td>社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。</td> </tr> <tr> <td>3 情報活用能力</td> <td>多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。</td> </tr> <tr> <td>4 自己表現力</td> <td>目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>5 主体性</td> <td>課題解決に向け、主体的に追究することができる。</td> </tr> <tr> <td>6 協働性</td> <td>課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>7 自己理解</td> <td>諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>8 社会貢献(社会参画)</td> <td>地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。</td> </tr> </table> <p>以上の観点をふまえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、ワークシート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。</li> <li>主に、定期考査・小テストで主に1・3を、ワークシート・グループワークなどで2・4～8を評価します。</li> </ul>	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容																	
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。																	
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。																	
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。																	
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。																	
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。																	
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。																	
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。																	
8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。																		
担当者から	ワークシートを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。 日頃から世の中に興味を持って、新聞やニュースを見ましょう。																		

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準	評価方法				
				1	2	3	4	5	6	7	8						
4	第1部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題	1章 旅からとらえる現代世界	1情報通信・交通			○		○		○				地理に関わる諸事象の基礎的な知識を理解し、資料から必要な情報を読み取る。 旅に着目して、多面的・多角的に考察し、議論する。 世界の地理的な課題を主体的に追求する。	年4回の定期考査 ワークシート 小テスト グループワーク などを元に評価する。		
4			2地球儀と地図			○	○			○							
4			3経度・緯度			○	○	○									
4			4国家・領土問題			○	○					○					
4			5国家間の結びつき			○	○			○							
4			6貿易					○	○	○							
5		2章 世界の自然環境と文化	1地形			○	○	○									
5			2気候			○	○	○									
6			3文化							○	○	○					
6		3章 世界の諸地域の生活・文化	1中国	1中国			○	○	○								
7				2韓国			○	○	○								
7				3東南アジア				○	○	○							
8				4南アジア				○	○			○					
9				5中央アジア・西アジア・北アフリカ				○	○			○					
9				6サハラ以南のアフリカ				○	○			○					
9				7ヨーロッパ				○	○		○						
9				8ロシア			○		○	○							
10				9アメリカ合衆国			○		○	○							
10	10ラテンアメリカ						○	○			○						
10	11オセアニア						○	○			○						
11	4章 地球規模で広がる課題	1人口問題	1人口問題			○	○				○						
11			2食糧問題			○	○					○					
11			3都市・居住問題			○	○					○					
12			4資源・エネルギー問題			○	○					○					
12			5環境問題			○	○					○					
12			6地球的課題の解決に向けて						○	○	○						
1	第2部 身近な地域の課題	1章 身近にあるさまざまな地図	1主題図・一般図	○		○	○										
1			2GIS	○		○	○										
1		2章 日本の自然環境と防災	1日本の自然環境	○						○	○						
1			2防災の取り組み					○		○	○						
1		3章 身近な地域の課題と地域調査	1地域調査			○	○					○					





